

## かなえたい暮らしをサポートする 楽しく動ける日常生活へ 寄り添い続けるリハビリのあり方

「つなぐ、つながる」を合言葉に、積極的な地域貢献を行う中嶋病院グループ。中でも、病院から介護施設まで一貫した情報共有とサポートを行うリハビリを頼りにする利用者も多い。「動ける」喜びを感じながら、安心して生活できるように。利用者の“その先”を常に見つめるプロフェッショナルに話を聞いた。



**入院から  
社会復帰までを  
グループ全体でサポート**

病气やケガをきっかけに、それまで普通  
にできていたことが難しくなったり、運動  
機能が低下してしまったり。日常動作の困  
難は、生活に支障をきたすだけでなく、気  
力の減退につながることも多い。そのため、  
基本動作の訓練を行う「リハビリテーション」  
は、機能回復に加え精神サポートの面  
でも重要だ。病院や入所施設、在宅ケアな  
ど、リハビリには多様な形があるが、中嶋  
病院グループはそれらを網羅。例えば、病  
気やケガで入院した場合、入院直後や手術  
前から急性期病棟でリハビリを始め、回復  
期リハビリ棟に移ると退院後の生活に向けた  
機能訓練を実施。退院後の外来リハビリや  
施設利用などへつなぎ、社会復帰までを長  
くサポートする。リハビリの間隔を空けず、  
すぐに次の段階につなぐ体制も万全だ。



中嶋病院リハビリテーション部係長の遠藤知恵さん。理学療法士として中嶋病院に勤務して20年のベテラン。「歩けた!トイレに行けた!と一緒に喜べる存在でありたいです」

中嶋病院リハビリテーション部の遠藤知恵さんは、急性期・回復期リハビリを担当。目黒敦さんは、介護老人保健施設「けやき」で生活期のリハビリを担う。働く場所は違うが「同じスタッフルームにいるので、常に情報共有ができ、引き継ぎもスムーズ。施設への入所が決まった方には退院前に挨拶をしたり、訓練の様子を見たりと、次のステップに向けて早めに動き出せるのも、同じグループの良さですね」(目黒さん)。「退院後の患者さんの様子を、次に引き継いだ施設のスタッフが常に教えてくれます。入院中の自分のアプローチが間違っていなかったか確認できますし、順調に回復していると聞くとうれし  
いです」(遠藤さん)

患者の状態や家族との関係、住環境は個人で異なる。そのため、入院時から本人や家族にヒアリングし、退院・退所後の生活を想定。目標を立てて訓練を行う。「入院



介護老人保健施設「けやき」のリハビリリーダーを務める作業療法士の目黒敦さん。青森県の病院で4年間の経験を積んだのち、中嶋病院グループに入職して16年になる。



グループ全体で、約130名のセラピストを配置。生活の基本となる「動」を通して、利用者に寄り添い続ける。

の段階でご家族に家の写真を撮ってもらったり段差を測ってもらったりするのですが、施設の入所時にも、改めてスタッフが家屋評価に伺い、在宅生活を具体的に想定してサポートします」(目黒さん)。「患者さんが思い描いていた退院時のイメージと乖離しないよう、目標を共有し一緒に頑張ります。リハビリは患者さんとスタッフが1対1で関わるもの。動作だけでなく、表情から気持ちを汲み取ることも大切です」(遠藤さん)。

今春開所予定の介護複合施設 care Nではリハビリ部を拡張し、より多くの利用者の支援を目指す。

### つなぐ/つながる 地域の新しい介護のカタチ

介護複合施設



医療が近くにある心強さ、リハビリで湧き上がる前向きな気持ち、食事で感じる喜びやわくわく感。医療と福祉サービスの連携が、充実のシニアライフをサポートします。

2022年4月誕生

HPは  
こちら



care  
N  
で  
医療・介護が  
つなぐ つながる

